

若手社員座談会 特集

Vol.25  
2019.

6





Vol.25 2019.6

# “若手社員座談会”特集

日本全国において、建設業の若い担い手が減少傾向にあり、2025年には約11万人超の不足が発生すると試算されています。

しかしながら、減少する理由や若年層のホンネはなかなか拾い上げられないのが現実です。

そこで、今号は萩原建設工業に勤める入社5年以内の若手社員が感じている“建設業のイメージ”を座談会形式でお届けいたします。

## 建設業のイメージ(入社前と入社後)

司会>  
土木系の学科に入るときのイメージと就職活動したときのイメージの変化は？

早川>  
詳細が分かるようになった程度(業務内容など)。  
高校から大学進学の時点では、土木と建築の違いが曖昧な理解だった。  
ざっくり、「土木は、土」で「建築は、建物」という感じ。土木が橋やトンネルなどを作っている事も解っていなかったが、  
学科の勉強をしていくうちに解っていった。

司会>  
土木工事現場で働く人のイメージは？

早川>  
朝早い、夜遅い。それが一番。日によるので一概には言えないけど、意外と朝早いなあ、と思ったことはある。

司会>  
実際に、朝は何時くらいから始業なの？

早川>  
朝6時、夜23時の日もあったけど、1年目の時はどんなに遅くても夜22時とかだった。  
慣れたものもあるし、最近は改善されつつあるかな。

司会>  
高校3年間は農業土木を学んで建設業界に飛び込んでくれたけど、  
土木のイメージってどんな感じ？

小針>  
3Kがある業界だと思った。

司会>  
なるほど。3Kって？

小針>  
「キツイ・汚い・臭い」…ですか？

早川>  
臭いでは無いんだけどね。言われがちだけどさ…(笑)

司会>  
本来の正しい3Kは？

全員>  
「キツイ・汚い・危険」ですね。

小針>  
実際は、汚いに関してはやりようだなって思う。  
作業後に整理整頓を怠らなければ綺麗。要するに、自分の仕事のやりようだと思う。

司会>  
文系学部から建設業界へ飛び込んでくれたというのは珍しいことだと思っていて、  
当時の建設業に対する印象はどんなものだった？

岩本>  
正直、あまりイメージが無かった。大変そうで汚れ仕事かな、程度。建物を建てるのが建設業の仕事という程度のイメージでした。  
文系学部生の就職活動は「何をしたいのか」ということよりも「どの会社に勤めたいか」というベクトルが強いと思っている。



早川 剛史<ハヤカワ ゴウシ>  
土木部 2015年入社



岩本 泰輔<イワモト タイスケ>  
建築部 2015年入社



山崎 雅史<ヤマザキ マサシ>  
総務部 2016年入社



小針 優聖<コハリ マサトシ>  
土木部 2017年入社



前田 俊希<マエダ トシキ>  
建築部 2016年入社

司会>  
前田くんは？

前田>  
入る前は、漠然と建設業は(職人さん達が)怖いというイメージがあった。  
でも、実際はそんなに怖い人はなくて、逆に頭が良い人たちの集団なんだなと感じている。

司会>  
頭が良いって具体的にどのような場面で感じるの？

前田>  
物事の捉え方だったり発想の転換だったりそう感じる瞬間です。

山崎>  
自分の建設業のイメージは、ひとりで「カッコいい」でした。  
土木は何も無い所から道路や橋を作って暮らしを便利にしてくれるし、  
建築に関しても高所で作業している人がいて高い建物を作って、街を賑やかにしてくれる。  
入ってから思うことは、技術者ひとりひとりのモノづくりに対する熱量が大きいと感じる。

司会>  
まとめると、労働環境は他業種と比べて良いイメージはあまりないね。  
逆に、入社前の仕事内容としては“面白そう”という印象が強いのかな。“建設業がラクそう”というイメージは全くないんだね。  
実際のところ(入社後)現場の環境は思ったとおり厳しい？

岩本>  
天気に大きく左右される業界だと実感している。100%の準備をしていても、天気の影響で0%になってしまうこともある。

早川>  
仕事が楽しいし、環境は良いと思う。  
自分が携わった現場に限るのかもしれないけれど、上司や先輩に思っている事を言いやすい環境だと感じているので。

## 若手社員が考える建設業界の未来

岩本>  
建築で言えば、施工図というのが技術者としてのひとつの登竜門になります。最近、BIM<ビルディング インフォメーション モデリング>などの  
新技術も登場しているけど、技術者は施工図を書けなきゃいけないと自分は思っている。だけど、その時間を短縮したいという思いもあつた。  
この矛盾をどうやって詰めていくかが今後の課題だと思います。  
簡単に言えば、ラクを実現するというメリットばかりに着目するのではなく、むしろデメリットに目を向けていくことが大事というか。

司会>  
デメリットとして考えられるのは、人間の性能が落ちていくことだと考えられるよね。

早川>  
土木も建築同様にコンピューター上で3Dモデルを作るけど、  
図面を正しく照査できなければ、間違ったモノが出来上がってしまうことになる。これって、怖いことですよ。  
結局のところ、基礎が分かっていないと便利なソフトがあっても使いこなせないし、無駄なものになってしまう。  
詰まるところ、やっぱり基礎が大切で、その基礎を教えてくれる先輩方がどんどん減っていく、少し悪循環な気がしている。

司会>  
20年後30年後、この建設業ってどうなっていると思う？昔はパソコンが無くて、図面はもちろん経理書類などの書類すべてが手書きだった。  
それが数十年でパソコンや携帯電話が普及して、働き方ってガラッと変わったと思うんだよね。  
BIMやICTのその先って、どんな未来が待っていると思う？

早川>  
構造物、たとえば橋とかは3Dプリンターで作ったものを、そのままクレーンで吊って『ドンッ!』みたいになるかもしれませんよね(笑)  
これが実現すれば、鉄筋を組むですとか型枠を組むですとかの作業が減っていくと思うんですよね。  
道路は本質的なところは変わらないと思いますけど、機械の無人化は進んでいくような気がしています。

自分も最近、採用活動に参加させてもらう機会が増えてきて思うのが、自分の会社に入ってもらいたい気持ちはもちろんあるけど、  
それよりも建設業界に入ってきてほしいという思いのほうが大きいです。

山崎>  
きっと小中学校での教育課程ってすごく大切で、その期間に建設業界に触れる体験する機会が増えていけば、  
未来も変わっていくと思っています。たくさんの方に建設業に入ってきてもらって一緒に盛り上げていきたいですね。

TOPICS!!  
Vol.25

# みんなのロケットが宇宙へ!!

2019年5月4日北海道大樹町にて、たくさんの方々が見守る中、  
インターステラテクノロジズ株式会社が  
『宇宙品質にシフト MOMO3号機』の打ち上げに成功いたしました!!

MOMO初号機の頃より、  
たくさんの方の夢と希望を込めて開発された“みんなのロケット”は、  
“宇宙への到達”という目標を見事成し遂げられました。

打ち上げ成功を記念いたしまして、  
インターステラテクノロジズ株式会社 TECHNOLOGIES  
代表取締役社長 稲川貴大 様より一言頂いております。

「日本初、民間企業で宇宙空間到達に成功できました。  
大きな成果ですが、まだまだ宇宙は広く始まりに過ぎません。  
これからさらに宇宙開発を北海道から盛り上げていきます。」

インターステラテクノロジズ株式会社の皆さま、本当におめでとうございます!



画像提供: インターステラテクノロジズ株式会社



## 📷 今月の表紙

撮影: 萩原建設工業 営業部・仁藤 正憲

今月の表紙はインターステラテクノロジズのMOMO3号機です。燃料が注入されると安全の為、射場を出なくてはいけないので、格納庫から機体立ち上げ燃料注入前までの大変細かいプロセスチェックの様子を見ていました。インターステラテクノロジズ社員の方は祈るような気持ちだったでしょう。ランチャーが離れ、真っ直ぐに飛び立っていった姿を観たときは本当に感動しました。数ある写真から“宇宙時代の夜明け”と云う事でこの写真を選びました。





NAITAI TERRACE  
ナイタイテラス

## 2019.6.3 GRAND OPEN

ここがみどりの世界。

株式会社 karch (カーチ)  
北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線238番地 上士幌町役場内  
TEL・FAX/01564・7・7777 mail/info@karch.jp  
http://www.karch.jp



2019年6月号 / HAGIWARA TIMES vol.25

萩原建設工業株式会社

本誌記載の記事に関するお問合せならびに引用に関しては当社営業部までご連絡ください。またバックナンバーは当社HPよりご覧ください。

〒080-0807  
北海道帯広市東7条南8丁目2

TEL.0155-24-3030

http://www.hagiwara-inc.co.jp/